

■
モーツァルト: 鳥たちよ、毎年のように **調性や作品番号のデータを添える**

欧文表記を付けるなら作曲家名も Oiseaux, si tous les ans

■
・キャッチフレーズ

鳥さんたちの可愛らしさと憂いが凝縮された小品

■
・プログラムノート

きょうの読み手はだれか。想定される読み手の、知識の多寡や、関心を念頭に記述する。

キャッチコピーにある、「憂い」の要素を文章にも入れてください(キャッチコピーの指導は、文章改訂のあとで、します)

18世紀オーストリアに生まれた作曲家、モーツァルト(生年と没年)が22歳の時、巡業で訪れたマンハイムで書いた作品。彼は5歳のころから即興演奏で作曲をしはじめ、神童と呼ばれた。若いころは特にヨーロッパ各地を巡回していた。その巡業中に、マンハイム(現在のドイツの都市)でにてこの作品を書いた。

モーツァルトは、教会音楽、オペラ、**歌曲**、交響曲、室内楽曲など、様々な分野にとっても多くの作品を残している。歌曲においても数多く残している。が、(実際の数字を調べて示す。多い少ない、という表現だけでは曖昧にしか伝わらない) 彼の母国語のドイツ語による作品が(何割を占めており、、、とここでもデータを示す)多いなか、フランス語による作品はたったの2曲のみである。この作品は、その一つ。創作の理由はただ、依頼主のダレダレが(調べる)作曲家に渡した詩がフランス語だったため(この部分、史実を調べて書いて下さいであったという単純なものであろう。

その詩は「鳥たちは毎年のように住処を変える。～(中略)お前たちは花の季節しか愛することができない、花の季節が過ぎると一年中、愛するために別の場所を探すのだ。」といった内容で、短い前奏で始まり、まるで鳥がまるでぴょんぴょん跳ねたり(読みやすさの点で、ひらがなを連ねるのは、悪くはないが、ここでは、ひらがなが連なり過ぎて、意味が取りづらい。漢字を入れることで、文章が読みやすくなることがあるので、よく考えて漢字の用・不用を決めるように)、羽ばたくいていくような音型で歌われ、ピアノと共に場面転換をするように表情がころころと(ころころ変わる、という表現は、消極的な評価を伴うので、避ける。単に次々に、とするか、表情が豊かに変化していく、などとする)変わっていく。(←○○小節の、とか、何分程度の、とか、ここでもデータを示す)、愛らしい小品である。

短い(←○○小節の、とか、何分程度の、とか、ここでもデータを示す)歌曲だが、詩のなかで「鳥たちは毎年のように住処を変える。～(中略)お前たちは花の季節しか愛することができない、花の季節が過ぎると一年中、愛するために別の場所を探すのだ。」とあるように、短いなかでも曲の表情がどんどん変わっていく可愛らしい作品である。

■
どんな読み手を想定しているか。芸術大学の学生。

■
書きたい要素を整理すること

作曲家のデータ、年齢、創作年代

委嘱者のデータがないので調べて盛り込むこと

作品の説明